

放送大学特別聴講制度の経緯

著者	石本 美智
雑誌名	高知工科大学紀要
巻	7
号	1
ページ	153-157
発行年	2010-07-29
その他のタイトル	Background on the Curricula Offered by the Open University of Japan at the Kochi University of Technology
URL	http://hdl.handle.net/10173/540

放送大学特別聴講制度の経緯

石本 美智

(受領日：2010年5月7日)

高知工科大学工学部環境理工学群

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

E-mail: ishimoto.michi@kochi-tech.ac.jp

要約：工学部単科大学として開学した本学は、当初は人文社会科目を担当する教員が極端に少なかったため、放送大学科目を履修科目に採用してきた。本稿では、放送大学を紹介するとともに、本学での単位互換制度の実施状況と経緯を報告する。放送大学の授業は、DVD・CDの視聴が主体で、大学の通常講義に比べると学生が授業への集中力を維持するのが難しいという傾向がある。開学当初は、出席率、合格率ともに低い状況であり、授業に集中できる環境を整えるという課題があった。その後、教務部の出席管理と独自に作成したQuiz(確認テスト)を毎回実施することで、出席率、合格率ともに大幅な上昇をもたらした。その一方、放送大学も提携校や履修生の要望を反映して、授業を改善してきた。本学学生による放送大学科目に対する授業評価もよいことから、単位互換制度は有効に活用されている。

1. 緒言

本学は1997年の開学当初は工学部だけの単科大学であったため、教養科目の中でも人文社会科学の授業を担当する教員が極端に少ないという事情があった。そのため、放送大学と単位互換協定を結び、放送大学が提供する科目を履修科目に採用してきた。

単位互換制度を利用する条件の一つとして、放送大学客員教員の派遣がある。客員教員の本学での主な職務は、約300科目ある放送大学科目から本学の目的に合った20~30科目を選択することと、放送大学科目を受講するための説明会を実施することである。また、放送大学での主な職務は、放送大学の学生の学習相談(修学上の指導及び助言)と、年2回の面接授業の企画、立案(担当講師の依頼などを含む)、放送大学生募集のための出前授業担当などである。

本稿では、数年間の客員教員としての知見をもとに、放送大学を紹介するとともに、本学での単位互換制度による放送大学科目の実施状況を報告する。

2. 放送大学

放送大学は千葉県にある放送大学学園(文部科

学省・総務相所管)によって1983年に正規の大学として設置された私立大学である。大学は教養学部だけで構成されていて、10代から80代まで約8万人の学部生と約6千人の大学院生が在学している。2009年3月現在で、56,174人の学部卒業生、2,412人の修士修了生がいる。その一方で、単位互換などを通じて、国内の他大学と相互連携を行い協力事業を進めている。単位互換協定は昭和61年に締結されて、現在、単位互換締結校は高等専門学校を含めて300校以上になる。高知県内では、高知大学、高知女子大学、高知工科大学および高知学園短大の4校と単位互換協定を締結している。

放送大学の目的は、教養の高揚とキャリアアップを目指す社会人のための生涯学習支援である。社会人への便宜を図るため1科目からでも履修することができ、単位数がそろえば学士・修士の学位取得が可能となるシステムになっている。さらに履修費用は、毎学期登録した単位数に応じた金額になっている。大学卒業資格を取得するのに必要な124単位を取得する費用も、ほぼ70万円に抑えられている。2001年には大学院も設置された。

放送大学は「本格的な授業を自宅でも」というス

ローガンを掲げ、放送授業を主体とした学習方法で行われる。それに加えて、印刷教材(テキスト)と通信指導と呼ばれる通信課程の添削と単位認定試験で構成されている。

授業は「スカパー!SD」(無料放送)、一部のケーブルテレビ、一部の地上放送で視聴できる。また全国57か所に設置された学習センター・サテライトスペースでも授業のDVDとCDが貸し出されている。放送授業プログラムと呼ばれる放送番組は、主に大学の教員が講師になって、その内容は本部の専用スタジオで収録されている。

放送授業だけでは、双方向の学習が十分とは言えないので、それを補う目的で、卒業条件には20単位以上の面接授業が含まれている。教員から直接受ける面接授業はスクーリングと呼ばれ、学習センターやサテライトスペースの教室で年間約3,000クラスが開講されている。この中には、「海洋実習」や「ゆったり湯学」、「龍馬の遺志を継ぐもの」など、地方の特色を生かした授業も行われており、履修者は県境を越えて受講している。

そのほかにも、2単位の体育実技、選択ではあるが卒業研究、提携大学の特別聴講制度などがある。

3. 高知学習センター

学習センターは東京に4か所、各都道府県に1か所ずつ設けられていて、その業務は面接授業、単位認定試験、学習相談、卒業研究指導などである。

高知学習センターは高知大学「メディアの森」内に構えられ、事務室、授業のDVD・CDの視聴と貸出を行う視聴学習室、学習相談室、面接授業用の教室などがあり、毎年、研修旅行を行って、学生と職員の交流の機会を作っている。在学生は2009年度1学期現在518人で、男女比はほぼ同数であり、さまざまな職業人が在籍している。60代以上の割合は約20%である。この年代の在学生は、高校時の大学進学率が低い時代の人々で、退職後、教養を高めるために利用していることもあり、学習意欲が高い。高知学習センターでの面接授業には、この年代の在学生が、他県から多く来ていた。

学習相談員は6人(高知大学教員5人と高知工科大学教員1人)で、学習相談のほかセミナーを週に1度行って、在学生との交流をしている。面接授業は年2回、40人以下の少人数で行われ、毎回10クラスほどが高知学習センターで開かれ

ている。

4. 高知工科大学での実施状況

本学は全国に300以上ある締結校の中で金沢工業大学と並んで多くの特別聴講学生と呼ばれる受講生がいる。開学時に単位互換制度を締結後、1997年2学期から放送大学科目履修を学生に提供している。2008年2学期からは教育協力型単位互換実施校になった。教育協力型単位互換とは放送大学の授業科目について、履修上の位置づけなどを行い、放送大学との単位互換について組織的に取り組む大学に対し、学生一人当たりの授業料の半額までを「教育協力費」として支払い、放送大学の単位を取得する制度である。実施要件は、

- ・放送大学科目について履修上の位置づけの明示
 - ・科目登録者数(見込み)が年間で100名以上
 - ・放送大学の連絡窓口の設置
 - ・履修ガイダンスの実施
 - ・出願書類や通信指導の取りまとめ
 - ・登録された授業のDVD・CDの貸し出し
 - ・集団で視聴できる環境の確保
 - ・計画的な視聴の確保
 - ・教育補助職員の配置
 - ・担当教員の配置
 - ・授業評価の実施(放送大学授業評価調査票の学生による記入、本学による取りまとめ)
 - ・機関としての評価を行うこと
- などである。

4.1 実施状況

履修は、開学した1997年度の2学期から始まり、1998年度と1999年度は1・2学期ともに実施していたが2000年度からは2学期のみの実施とし、1学期は前年度2学期に不合格となった科目の再履修と編入生の希望者を対象とした履修に充てている。

表1は、年間の実施スケジュールをまとめたものである。6月までにその年の履修科目を放送大学へ通知し、6月上旬に履修説明会を本学で開催した後、事務局教務部で取りまとめて出願書類を提出する。大学の2学期が始まる10月までに、教材が届き2学期から受講が始まる。11月下旬に、いわゆる中間試験である通信指導が行われる。翌年の1月下旬の単位認定試験に合格して、単位取得ということになる。本学では、放送大学の採点を基準に独自の成績評価を実施している。

表1 放送大学科目履修日程(高知工科大学)

		5~6月上旬	履修科目の通知
		6月上旬	出願書類の送付
10月1日	契約書締結	9月下旬	放送教材の送付
		11月下旬	通信指導問題の送付
		11月下旬	入学許可書、学生証の送付
1月中旬	学生授業評価表の送付	12月上旬	通信指導提出締め切り
1月下旬	授業評価の実施	1月中旬	通信指導結果送付
2月下旬	成績評価の送付	1月中旬	単位認定試験通知(受験票)の送付
~3月下旬	教育協力費の払い込み	1月下旬	単位認定試験

放送大学科目履修対象学生は4年生を除く1年生から3年生までで、最大履修科目数は単位の取得にかかわらず在学期間を通じて原則6科目である。放送大学からの単位認定試験結果が出る時期と、大学の卒業要件確認の日程が重なるため、4年生は原則対象がだが、特別は理由がある場合は受講可能である。

放送大学の授業は1コマ45分間のビデオ視聴と印刷教材の自習になっている。土曜日などの通常授業がない時間帯を使用して、放送大学授業の1コマの授業を45分の集団視聴形式で15回行ってきた。今年からは、2コマの授業90分に変更された。開学当初は、出席率も低く、通信指導を提出せず、不合格となる学生が多くいた。通信指導を受けた学生の合格率は高いことから、大学では出席確認を取り、指導を徹底することにした。現在では、ティーチング・アシスタントがカードリーダーを使って出席確認をし、授業後にQuiz(確認テスト)を実施する。出欠管理はカードリーダーを使った確認に加えて、Quizに解答して初めて出席として認められ、成績の一部に加算される。この授業方式に変えた結果、学生の出席率とともに合格率が上昇した。Quizはビデオ視聴と印刷教材の通読で解答できる簡単な問題で構成されているが、学生の集中力を高め、同時に復習も行えるようになっているため、その効果は大きい。

本学では、放送大学の科目だけでなく、すべての履修科目に対して、学生による授業評価を行っている。放送大学科目の平均的評価は、本学の履修科目全体の平均的評価より高くなっていることから、放送大学科目は学生に快く受け入れられているといえる。

4.2 受講者の経年変化

放送大学科目の受験者数と合格者数の経年変化は表2にまとめられ、図1でグラフにされている。

表2 放送大学科目受験者数と合格者数と合格率

年度 - 学期	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率
'97-2	1319	532	787	40.3%
'98-1	1328	317	1011	23.9%
'98-2	1104	512	592	46.4%
'99-1	824	342	482	41.5%
'99-2	900	437	463	48.6%
'00-2	955	498	457	52.1%
'01-2	593	384	209	64.8%
'02-2	1033	328	705	31.8%
'03-2	1288	588	700	45.7%
'04-2	764	553	211	72.4%
'05-2	920	741	179	80.5%
'06-2	612	578	34	94.4%
'07-2	726	666	60	91.7%
'08-2	624	495	129	79.3%
'09-2	482	362	120	75.1%

1997年の開学当初から多くの学生が放送大学科目を履修してきた。しかし、2000年までの放送大学科目授業は、高度な授業内容を旧国立大学風の講義形式で行っていたため、放送大学の正規学生の合格率は低く、また本学の学生の合格率も50%以下であった。そのため出席率は低く、履修学生数も減少した。

単位認定試験は、印刷教材持ち込み可能の試験が多く、学生が持ち込んだ印刷教材は試験前にあまり使われてないことを窺わせる状態のものが多かった。このような状況の改善はまず出席率を上げることと考えられたので、教務部が出席を取るようになった。その結果、出席率が上がった。その後、大学院生による教務補助制度（ティーチング・アシスタント）ができて出席管理を代行することになった。

2004年に履修者数が減っているのは、本学の学生の学習を促すという目的で1科目の授業コマ数が15コマから18コマに変わり、時間割の都合上受講が難しくなったことが一つの要因である。その後、授業コマ数は再び15コマに戻った。受講者数の減少の大きな原因のもう一つは合格率が低いことであった。単位試験受験の様子から、学生が印刷教材をほとんど利用していないことがわかったので、教務部は各授業後の復習をさせる目的でQuiz(確認テスト)を実施し、合格率を飛躍的に上げた。

一方、同時期に、放送大学も2000年頃から、学生の気質変化に応じて、科目内容の検討を始めた。とくに、教育協力型単位互換締結校の専門学校に提供していた科目の合格率の低さを改善する

ために、授業の見直しが行われたことが大きな転機になった。放送大学では独自の学生評価アンケートを行って、授業、印刷教材、単位認定試験の改善が始まった。講師陣の入れ替えも進んだ。授業科目の内容改善は本学の科目選択にも反映されている。この相乗効果の結果、合格率が開学当時の40%から80%前後に上がったと考えられる。

5. 結言

放送大学の授業は、DVD・CDの視聴が主体で、大学の通常講義に比べると学生が授業への集中力を維持するのが難しい傾向がある。集中できる環境を整えるという課題に対して、本学の教務部の出席確認と独自に作成したQuizを毎回実施するという解決策は、合格率の大幅上昇をもたらしたのものとして特筆すべきである。放送大学も、提携校や履修生の要望を反映して、授業を改善してきた。

本学においても、通常授業と放送大学授業の位置付けを明確にして、学生にとってバランスのとれた学習環境を整えるため、よりよい利用方法が検討されていくだろう。

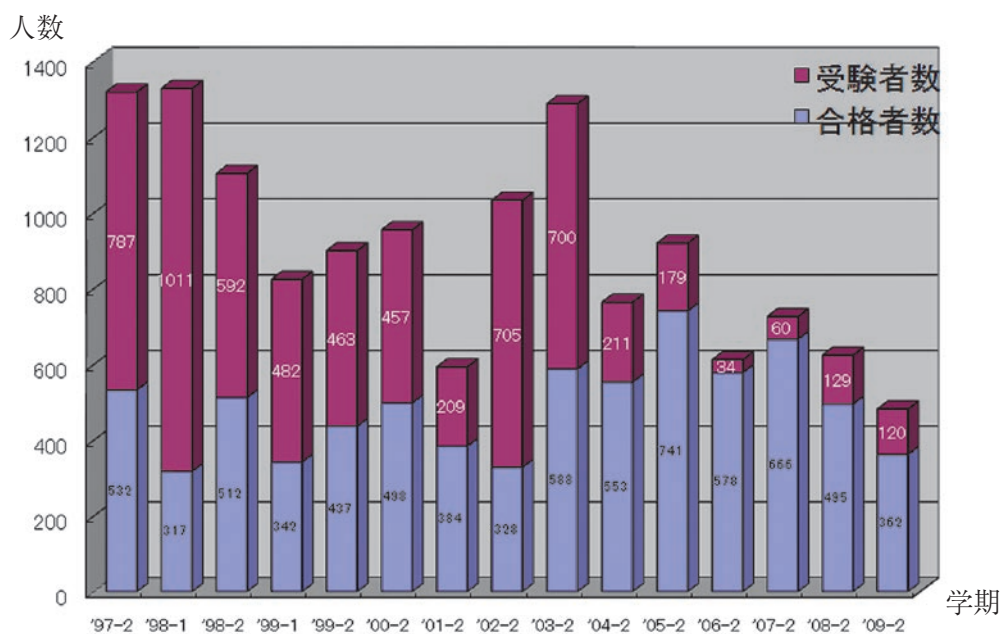


図1 放送大学科目の受験者数と合格者数

Background on the Curricula Offered by the Open University of Japan at the Kochi University of Technology

Michi Ishimoto

(Received : May 7th, 2010)

Environmental Science and Engineering

Kochi University of Technology

185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami city, Kochi 782-8502 Japan

E-mail: ishimoto.michi@kochi-tech.ac.jp

Abstract: This report examines the process by which the Kochi University of Technology (KUT) has adopted and implemented some courses that are offered by the Open University of Japan. In contrast to regular lecture classes in which information is disseminated by a university instructor, courses offered by the Open University require students to view a lecture DVD or listen to a lecture CD so as to receive information. Students at KUT who watched lectures on DVD or listened to lectures on CD exhibited reduced attention and concentration in comparison to those who attended regular lecture classes. When the Open University courses were first offered at KUT, student attendance dropped, and only half of students passed these courses. To increase student attendance, university registrars began taking class attendance; attendance levels reached nearly 100% as a consequence. The registrars then prepared quizzes to be administered at the end of every class to help the students review the class topics, resulting in a dramatic increase in the final exam pass rate. Based on its student evaluation system and in response to requests by affiliated universities and vocational colleges, the Open University improved its curricula around the same time period. Our students' evaluation results indicate that they appreciated the curricula improvements.